

# 2025年度大学入学共通テスト「情報」 への対応に関するアンケート調査結果

河合塾では、2023年11月にオンラインイベント教科「情報」これからの一年ー大学入試に向けた取り組みーを開催しました。イベントにご参加くださった先生方に、厚く御礼申し上げます。

本資料では、イベントにご参加くださった高等学校情報科担当の先生方に、2025年度大学入学共通テスト「情報Ⅰ」に向けた学習指導等の取り組みと課題について聞いた結果をご報告いたします。

**河合塾**

オンラインイベント

## 教科「情報」これからの一年 – 大学入試に向けた取り組み –

日時 2023年11月26日(日) 10:30～12:30

実施方法 オンライン (Zoom Webinar) にて開催

対象 高等学校・中等教育学校・中学校教員、教育委員会・教育センター情報科ご担当者、大学教職員 ほか

### プログラム

基調講演	将来につながる「情報Ⅰ」の学び	竹中 章勝 先生 (桃山学院大学 講師)
	「情報」入試の最新動向	河合塾 教育研究開発部
講演 授業実践事例	「情報Ⅰ」と探究力の未来形 ー共通テスト実施を一年後に控えてー	藤岡 健史 先生 (京都市立日吉ヶ丘高等学校 教諭)
講演 授業実践事例	3年間の学習プランと途中経過 ーこれからの1年、どうしましょうー	佐藤 義弘 先生 (東京都立立川高等学校 指導教諭)
講演	徹底活用 共通テスト対策模試 ー興味を深め、成績を伸ばすー	加賀 健司 (河合塾 講師)
	事前質問へのご回答	

情報科の指導をテーマに、オンラインイベントを実施  
当日の参加者アンケートをご紹介

オンラインイベント

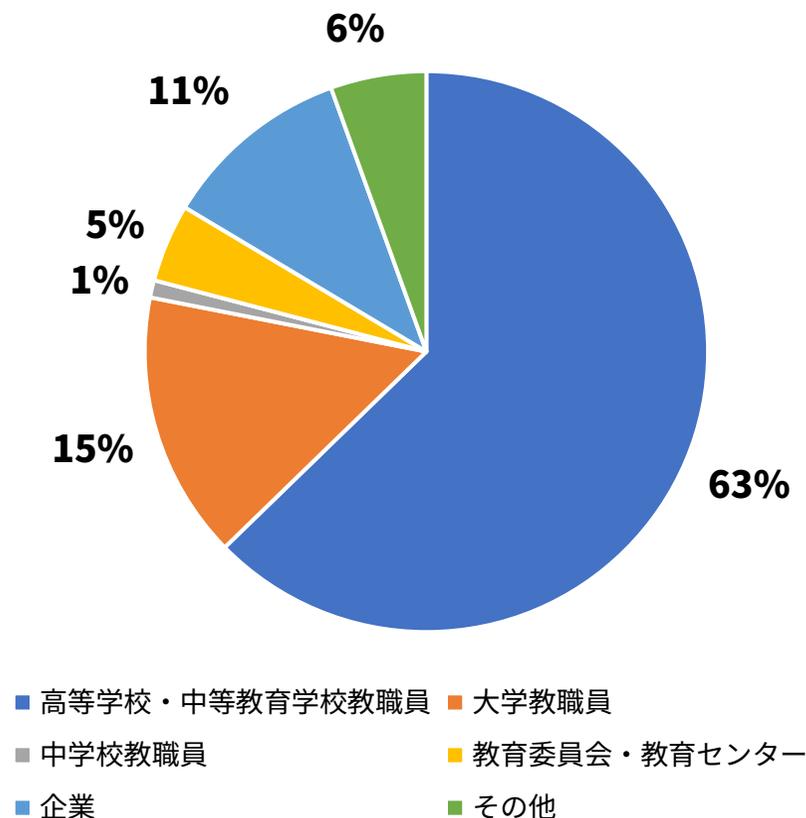
## 教科「情報」これからの一年 – 大学入試に向けた取り組み –

参加者アンケート回答者 属性

ご所属 (件数)

ご所属	回答数
高等学校・中等教育学校教職員	195
大学教職員	48
中学校教職員	3
教育委員会・教育センター	14
企業	34
その他	17
<b>合計</b>	<b>311</b>

ご所属 (割合)



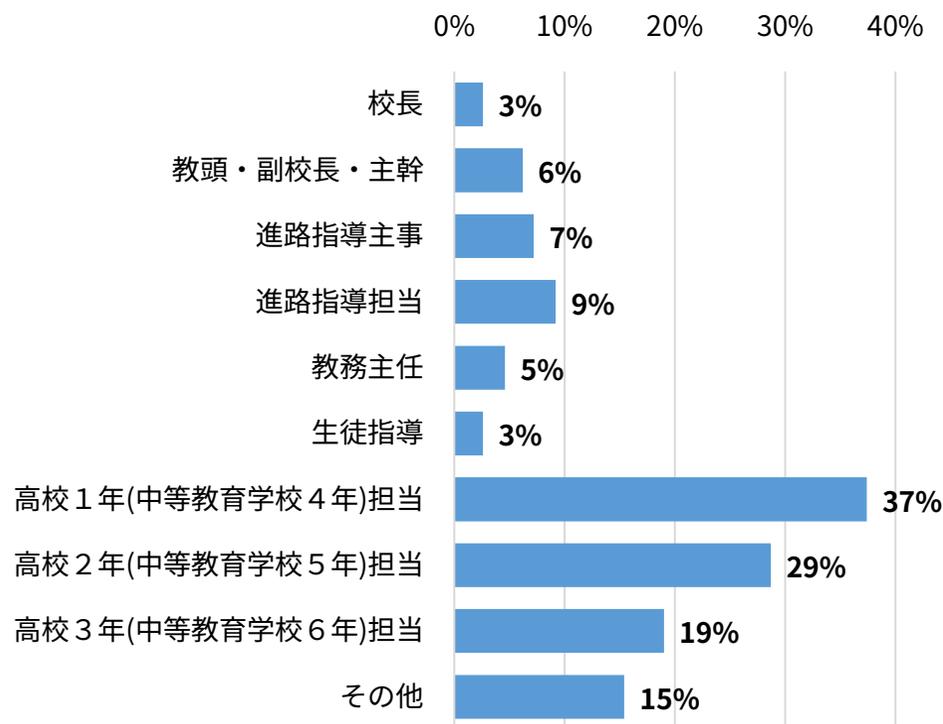
[調査対象] 2023年11月26日開催オンラインイベントにご参加くださった方  
 [調査期間] 2023年11月26日～12月05日

オンラインイベント

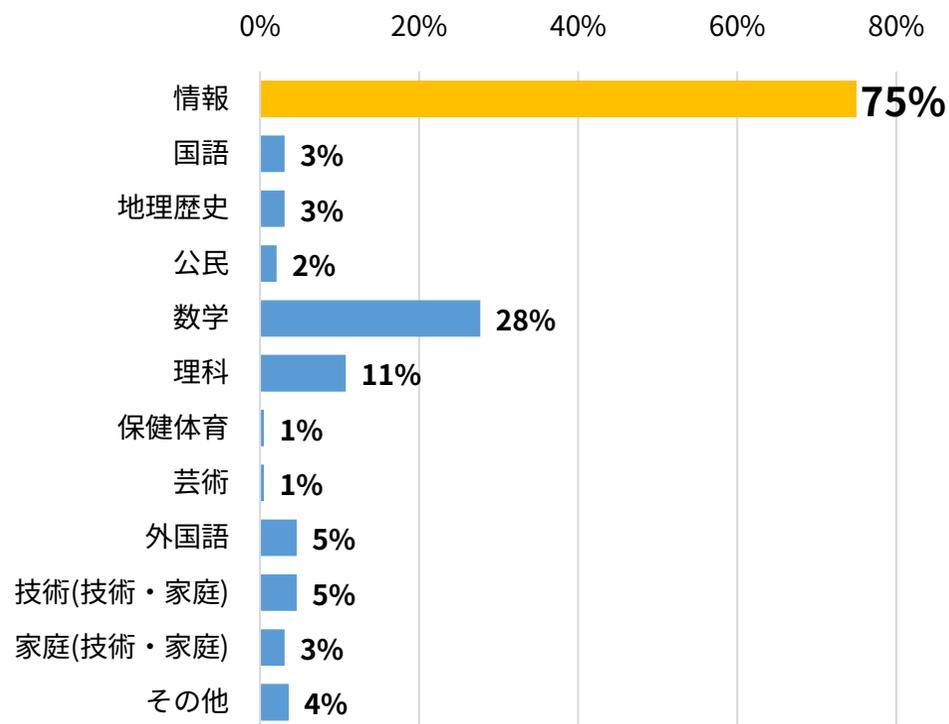
## 教科「情報」これからの一年 – 大学入試に向けた取り組み –

参加者アンケート回答者 属性

校務分掌（複数回答可, N=195）



担当教科（複数回答可, N=195）

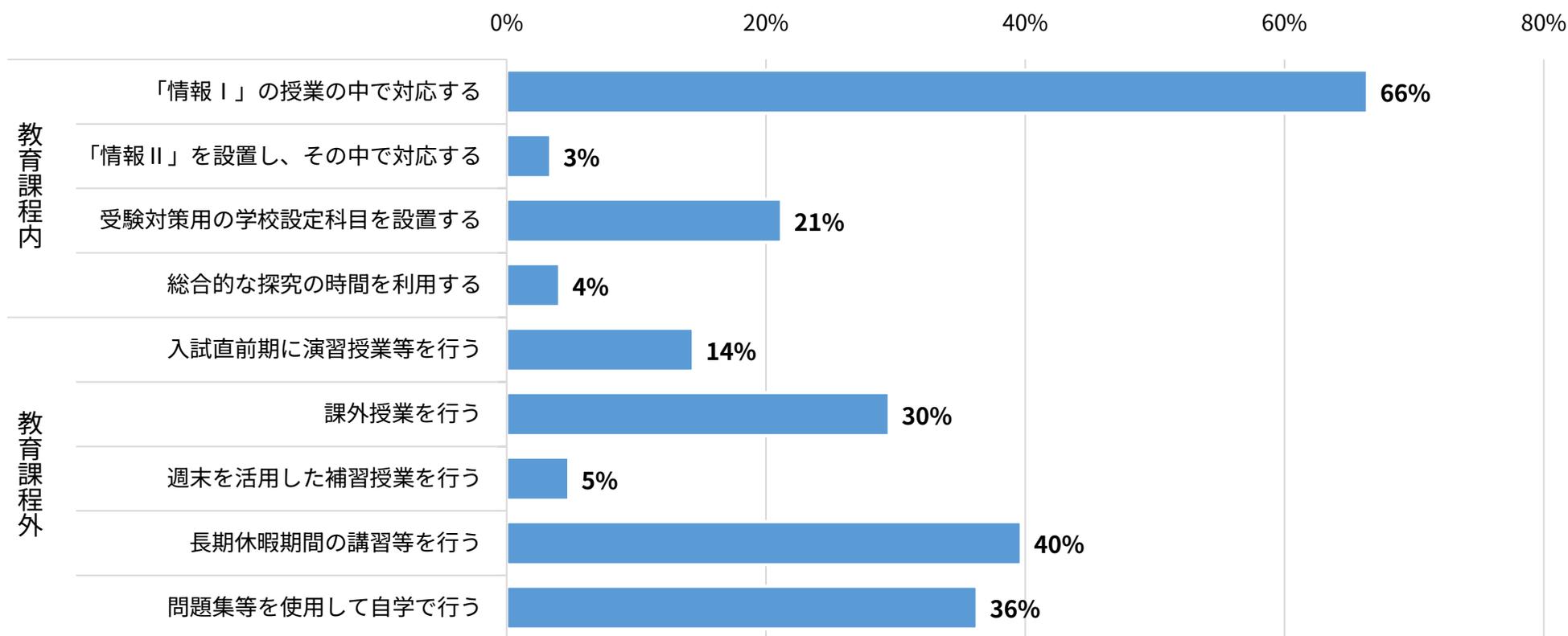


高等学校の情報科担当教員のアンケート回答を抽出

2025年度共通テスト「情報」に向けた取り組み、課題についてご報告します

- 「情報Ⅰの授業の中で対応する」が最も多く約6割。次いで、「長期休暇期間の講習等」「問題集等を使用して自学」「課外授業」が3～4割程度と、教育課程外で対応する割合も多い。
- 後述のとおり、取り扱う内容に比べ授業時数不足を感じる先生方が多いことが背景にあるとみる。

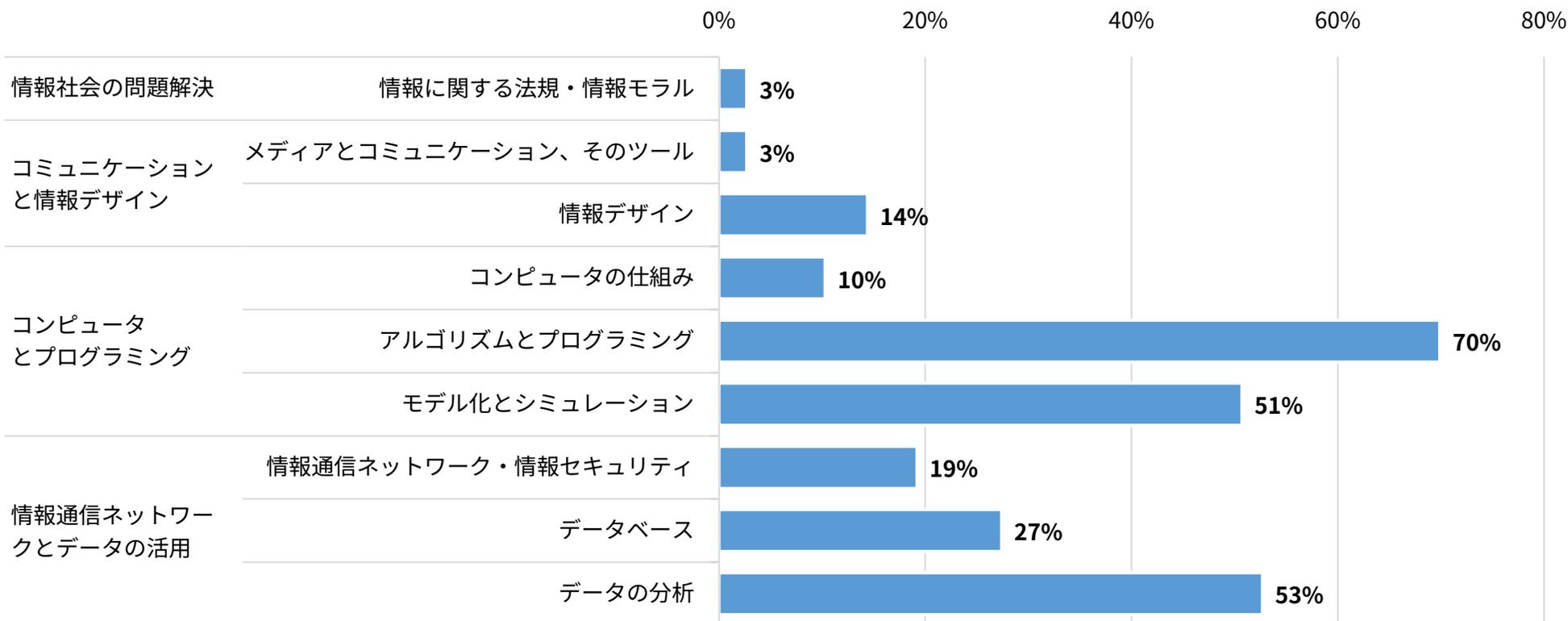
Q. 2025年度大学入学共通テストから「情報Ⅰ」が出題されます。貴校での学習指導・受験対策などの実施状況やご予定について、あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可,N=146)



## Q. 共通テスト「情報 I」に向けて課題となりそうな単元①

- 「アルゴリズムとプログラミング」が最も多く約 7 割。次いで、「データの分析」「モデル化とシミュレーション」が約 5 割、「データベース」が約 3 割となっている。
- 理由を聞くと、時間数不足や生徒の苦手意識、数学科など他教科との連携といった回答が目立つ。

Q. 大学入学共通テスト対策を行う上で、課題となりそうな単元はありますか。あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可,N=146)



## ● 「アルゴリズムとプログラミング」を挙げた理由

### 高校1年（中等教育学校4年）担当

- 実習まで含めた時間が取りにくい。
- 演習する時間を普通の授業では確保できない。
- 演習量などどれくらいすればよいのか不明だから。
- 授業において十分な時間が取れない。また、問題を時間内に解くためのトレーニングも必要。
- 他教科との連携がほぼなく、情報科で教えなければならない単元である。  
コンピュータとプログラミングは日常生活で意識しづらく、またプライベートで経験している生徒も少ないため、慣れる、理解するのに時間がかかる単元である。

### 高校2年（中等教育学校5年）担当

- プログラミングの他、数学が苦手であったり計算慣れしていない生徒が多い。

## ● 「データの分析」を挙げた理由

### 高校1年（中等教育学校4年）担当

- 数学との連動に課題がある（数学科では手計算の練習にとどまっている）。
- データベースの範囲まで2単位の授業数では手が回らないため。そもそも大学入学共通テストには出しづらい分野と私が考えているため、後回しにしてしまっている。データの分析は逆に時間を掛けなければ生徒の理解が得られないが、その時間がない。

### 高校2年（中等教育学校5年）担当

- 問題文が長いなかで、DNCL\*、資料グラフデータの読み取りなど、答えに至るプロセスを明示化（言語理解）させにくい。
- データの分析にかけた時間数が少ない。

### その他

- 数学の知識が必要であると考えており、数学科との連携が必要であると考えするため。
- 数学との相関性が高く、数学嫌いの生徒に対する対応。

\*DNCL: 共通テスト手順記述標準言語。高等学校情報科では採用されるプログラミング言語が多様かつ実習時間も異なることから、大学入試センターが大学入学共通テストでの出題にあたり、独自のプログラミング言語を使用している。

## ● 「モデル化とシミュレーション」を挙げた理由

### 高校1年（中等教育学校4年）担当

- モデル化とシミュレーションやデータの分析などは他教科と重なる部分があり、そのためか高度な内容が出題されていること。コンピュータのしくみやデータベースは教科書会社によって扱いの比重が異なり、本校が扱っている教科書では扱いが薄いため。
- モンテカルロ法、待ち行列等、幅広い分野があり取り扱いに偏りが出てしまいそうである。

### 高校2年（中等教育学校5年）担当

- 意識的に自ら思考して体得していく単元であるので、生徒自身の取り組みに左右されそうだから。

### その他

- データの分析との差別化が難しい。

Q. 共通テスト試作問題や今回のイベントを受けて、これからの一年をどのように取り組んでいこうとお考えでしょうか。自由にご記入ください。

## 高校1年（中等教育学校4年）担当

- 日常生活で触れるようなことになるべく結びつけ、「覚える」より「日常生活とのつながりを理解する」というような事例を多くして授業展開をしたい。
- 指導要領を読み直す。日常生活における問題解決の素材を収集する。「!」「?」を与えてくれる教材および問題を研究する。
- 生徒の主体的な目標と学習のニーズを十分に把握し、入試と探究にそれぞれ合わせた授業体制を整える。教科書の選定から、オンライン教材に至るまで計画的に実行する。
- 自作問題や問題集・参考集を購入したりして共通テストを受験予定の生徒たちが不利にならないようにサポートしていきたい。
- 採用する問題集をどれにしようか、とにかく解きまくることと、共通テストに関する最新の動向にアンテナを張り続けることが重要だと考えています。

## 高校2年（中等教育学校5年）担当

- 良質な問題集の選定と模試の有効活用。夏休み学習会も案に上がっていますが、生徒が意欲的に取り組みやすい仕組みづくりも必要だと感じました。
- やはり実習中心の授業が大切だということを再確認させられた。しかしながら学校全体でそのような機運を高めないと「情報」という教科への理解がまだまだ深まっていないと考える。

河合塾 情報科教員応援サイト「キミのミライ発見」

情報科教員を対象として、今回のイベントレポートのほか、教科「情報」を取り巻く動向を幅広く発信しています。

- 先進的な授業実践事例 (300件以上)
- 関連学会・シンポジウム レポート
- 入試過去問題 (ほか)



キミのミライ発見

検索

わくわく★キャッチ!
河合塾

新時代の高校生を育てる高校教育 サイト

# キミのミライ発見

情報化で変わる社会でキャリアを築く学びのために

情報科教員応援サイト

HOME

授業事例：バックナンバー

講演・シンポジウム：バックナンバー

インタビュー：バックナンバー

情報入試

『キミのミライ発見』とは

Society5.0の社会では、IoTによってすべての人とモノ、情報がつながり、AIやロボットの浸透によって生活や社会の姿が大きく変わっていきます。その中で必要となる学びの姿とは？『キミのミライ発見』では、日本の元気につながる教育のあり方を考えていきます。

情報の入試問題を授業で活用！

**入試問題検索サイト**

→詳しくはこちら

「情報」入試を実施する大学

詳しくはこちら

高校生の学びの世界を広げる注目本、情報学の先端研究を学べる大学・学部・学科も詳しく紹介！

mirai book  
学園・大学ナビ

mirai plus  
本と学園で拓く未来！ 高校生応援サイト

授業・生徒指導のお役立ち情報

- ◆ [「情報」学習指導要領の分類から探す](#)
- ◆ [カテゴリ別に探す](#)

⇒情報系の大学研究と「学べる大学」はこちら  
(若手セッションIPJSJ-ONE協力ページ)

Facebook

キミのミライ発見  
Facebookページ

情報の入試問題を授業で活用！

**入試問題検索サイト**

→詳しくはこちら

「情報」入試を実施する大学

## 河合塾 Kei-Net Plus 教育関係者のための情報サイト

最新の教育情報、  
独自のインタビュー記事、  
イベントの案内を  
随時配信中  
ニュースレター  
配信登録もぜひ！

- ◆ 本資料の内容の無断転載・複製  
はご遠慮ください。
- ◆ 本資料に関するお問い合わせ  
学校法人河合塾 教育研究開発部  
Email:  
keinet-plus@kawai-juku.ac.jp



Kei-Net Plus

検索

The screenshot shows the Kei-Net Plus website interface. At the top right, it says '河合塾グループ 河合塾' and '高校生・受験生の方 | 大学教職員の方'. Below this is a navigation bar with categories: '大学入試情報', 'レポート', '商品・サービス', '情報誌・書籍', 'イベント・研修', and '調査・研究'. A central banner features the Kei-Net Plus logo and the text '教育関係者のための情報サイト'. Below the banner, there are three featured articles:

- J-Bridge System 導入大学 活用事例集** (商品・サービス): J-Bridge System 導入大学 活用事例集を公開しました。これからの大学入試に不可欠な受験生の多面的評価支援ツール「J-Bridge System」を導入し、大学入試に活用している大学の活用事例集
- 学校と社会をつなぐ調査** (調査・研究): アーカイブ映像公開「学校と社会をどこまでつなげるか」～10年調査から考える課題～。「学校と社会をつなぐ調査」の成果と10年間の学びの環境の変化を踏まえ、学校と社会の連携
- Guideline** (情報誌・書籍): Guideline9月号・12月号 発行後に判明した大学入試情報。ガイドライン9月号・12月号発行後に判明した2024年度大学入試情報について、PDFで公開しています。本誌とあわせてご確認ください。